

立春を過ぎ、3年生は自宅学習期間に入りました。

事実上2年生が最上級生となり、いよいよ自分たちが進路を選択する年度を迎えます。大事なことは、行きたい会社や学校を希望しても、基礎学力が身に付いていないと進路が実現できない場合があるということです。3年生になるとみんな必死に進路対策に取り組むので、この3学期を「高校3年生の0（ゼロ）学期」として早めに取り組んだ人ほど後で大きな差になって表れます。今、真剣に自分の進むべき道を考えて受験先を調べておくことが大切です。

1年生は中堅学年としての自覚と行動が求められる年度を迎えます。上級生が一生懸命取り組んできた姿を参考にしながら真の鹿工生として更なる高みを目指して精進してください。そのためには、まず進級する系の学習の基礎となる今の授業全てに意欲を持って取り組むことです。その結果次第でこの学期までの頑張りを含めた高校で初めての「評定」が決まります。将来の進路選択に大きく関わるものなので、良い成績をあげられるよう常に意識してしっかり取り組んでください。

## 今年度の受験報告書より～後輩へのメッセージ～

### （就職編）

#### ◎一般常識・適性検査に関して

- ・時事問題は、日頃ニュースを見ていないと難しい。
- ・企業問題は、求人票やパンフレットからすべて出題された。
- ・国語はことわざ、敬語、四字熟語を覚えておく。数学は因数分解、展開、濃度算は解けるようにする。英語は動詞の変形など基礎問題は解けるようにする。
- ・SPIは3冊を2～3周した。学校で配布されたものを完璧にして自分の買ったものでいろいろなパターンに対応できるようにした。（友人と交換してとにかく解いた）
- ・SPIは言語と非言語があり問題数も多いため、日頃からスピードを意識して問題を解く。
- ・SPIの言語は選択肢があるが非言語はほぼ選択肢がない。時間配分に気をつける。
- ・SPIの言語は長文読解で時間が足りなかった。対義語、二語の関係文法を正すところを速く正確に解けるようにするとよい。

#### ◎作文・面接に関して

- ・作文は、過去問を練習して国語の先生に訂正していただき、書く内容を考えておく。
- ・面接は、約20人の先生に練習していただいた。（夏休み10人、2学期10人程）
- ・面接では質問の答えに対して様々な質問をされるので、面接練習の際には先生方に深く掘り下げてもらうようお願いした方がよい。
- ・世間話から始まると緊張することなくリラックスできるが、逆にボロが出やすくなるから気を付ける。
- ・面接時に、「これまで練習してきたとは思いますが、素の自分を出して欲しい」と言われました。練習する時は、考えたことを最大限に言語化させる力が必要だと思います。
- ・相手に何を伝えたいか、そして自分と会社について理解していることを具体的にエピソードも交えてまとめておくのが重要だと感じた。
- ・面接が一番大事。大きな声で、良い表情で、前向きに、目をしっかり見て、相手が聞き取りやすいように、といったポイントをしっかりと押さえて答えれば大丈夫だと思います。
- ・鹿児島工業高校の系というのが他の学校の科とどう違うのか聞かれた。
- ・面接は、受験報告書と全然違う内容を聞かれた。同じ質問がくるかどうかは断定できない。
- ・最後に逆質問があったので、研修や転勤のことなどについて質問をした。
- ・グループディスカッションでは、司会者や発表者には積極的に立候補するとよい。
- ・会場で旅費を用紙に書く際、住所、電話番号、郵便番号などを記入するのでメモしておく。



## (進学編)

### ◎学力試験に関して

- ・受験時は、時間を意識して正確にあせらずに解く。
- ・大学の過去問はもちろん、他大学の過去問も活用した。
- ・国語総合は、四字熟語や対義語といった部分を勉強しておいた方がよい。
- ・早くから勉強を始めて損はない。まだまだと思っていると、すぐに時間は過ぎる。
- ・とにかく落ち着くことが大事なので、落ち着きを大切にしてください。自分は焦ってしまい、普段ではとける問題も時間がかかってしまったり苦戦したりしました。
- ・数学も英語も過去問をした方がよいが、過去問に囚われすぎるとも良くない。したことない問題が出ると、頭が真っ白になる。満遍なく、多くの問題にふれるのが良い。

### ◎小論文・作文に関して

- ・とにかく練習を重ねる。
- ・小論文の意見論述対策として知識増強のために「日本の論点」等を読むとよい。
- ・作文を書くために、ネタが必要なので行事に参加したり、知りたいことがあれば、市役所や先生などに聞く。(とにかく行動することが大切)
- ・県短のホームページには、過去の問題の課題文が掲載されていないので、他の公立大学の問題を参考にして練習すればいい。(例：静岡大学人文学科など)

### ◎面接・口頭試問に関して

- ・待ち時間の態度に気をつける。
- ・面接時は、面接官の目を見て、ハキハキと話す。
- ・面接の練習を繰り返すこと。緊張をしすぎないように。
- ・面接官は優しく接してくださるので、緊張しすぎず、落ち着いて答える。
- ・面接室の扉は押戸だったので、横開き戸以外の動きを確認したほうがよい。
- ・面接で毎年聞かれている質問の統計をとり、自分なりの答をまとめておいた。
- ・面接練習において、予想していない質問に答えられる柔軟性を身に付けておく。
- ・志望理由は必ず聞かれるから完璧にしておく。自己PR、学校生活で頑張ったこと、日頃気をつけていることなどを練習しておく。
- ・多くの先生に面接練習をしていただいた。先生方によって指摘してくださるポイントが違うので、本番ではほぼ完璧な状態で臨めることができた。
- ・挙手制の質問が多かったので、面接練習ではそこを重視して、文章ではなくキーワードで覚えて練習した。質問は、受験生はみんな答えていました。答える順番は関係ないと思う。
- ・面接は基本的に自己紹介書から質問されるから、自分が書いた文書からどのような質問がされるか予想し準備をしといた方がいい。運動部の人は自分の競技についても調べておくべき。

## 学年末考査へ向けて～次の学年で良いスタートを切るために

1・2年生は 19日(月)から学年末考査が始まります。この学年の最後の定期考査は1年間のまとめとして、今までの努力の成果でどれだけ自分がレベルアップしているかを判定できる大変重要なものです。

就職したい会社があって求人票が出されても、その会社が求めるレベルに達していなければ受験することさえできません。進学も同様です。

定期考査は普通の授業をしっかりと受け、復習しているかを確認するための問題です。高校における学習内容が身に付いているかどうかをみるため「健康診断」のようなものです。まったく勉強もせずにテストを受けて

結果だけみても、それは「運試し」と同じです。たとえ、たまたまヤマがあたって点数だけとれたとしても、実力が付いていなければいずれ大きな失敗につながるでしょう。学年の締めくくりとして、次の学年に良いスタートが切れるようにしっかり復習してテストに臨みましょう。

もちろん、提出物などをしっかり済ませておくことも大事なとは言ってもありません。

